



知エネルギーニュース

微生物が松の木の用心棒として注目を集めています！

「松枯れ病」から松の木を守る特効薬ができました！松の木をたのもしくガードしてくれるこの薬は、化学薬品ではなく微生物のはたらきを活かしているため、松林やそこに住む動植物にもやさしいと、大いに期待されています。

「松枯れ病」とは、松の木の葉が突然赤くなったかと思うと、あっという間に木全体が枯れてしまう病気。被害の広がりも早く、ほおっておくと松林全体がしだいにダメになってしまいます。その原因は、マツノマダラカミキリという害虫です。以前はさかんに農薬散布による駆除が行われていましたが、害虫以外の昆虫や、いきもの全体にも影響をおよぼすのでは、という心配がありました。

そこで、出光のアグリバイオ事業部は、微生物の力でマツノマダラカミキリを退治する「微生物殺虫剤」を開発。

もともと自然界に存在するしくみを活かしたもので人にもまわりのいきものにも安心。

まかれたあとは自然に分解します。環境も守る松の木の用心棒、微生物殺虫剤は、今後ますます注目を集めそうです。



松枯れ病にかかって赤くなった松の木。



マツノマダラカミキリ。



白い帯のようなものが出光の微生物殺虫剤『バイオリサマダラ』。

【 2008/7/18 公開（内容は公開時点のものです） 】